

3つの理解ポイントで、子どものヤル気アップ！

こんなことで、お悩みじゃありませんか？



うちの子は、帰ってきたらランドセルを投げ出して、すぐにゲームを始めてしまう。何度も注意しているが、鉛筆すら持とうとしない。私に似てしまったのか・・・。



「この間のテスト、どうだったの？」って、何度も聞いても「あ～、う～ん・・・」とか言ってハッキリしないし、見せてくれないの。きっと点数が悪かったね。もっと勉強させなきゃ。



ダメだ。まったく何もしない。ボケっとテレビを見て、毎日だらだら過ごすだけだ。私に似てしまったのか・・・。
もっと何にでも積極的に取り組んでほしい。

うちの子は、毎日家庭学習してるし、お手伝いもよくしてくれるわ。3つの理解ポイントのおかげね。



えっ！
3つの理解ポイントって？！

あるある①

「学校から帰るとすぐゲームを始めて、勉強をしようとしない」

理解ポイント

1

子どもは、子どもないに忙しい



学校や塾、習い事に宿題、ゲームにテレビ、友達との付き合い・・・。

子どもは、子どもなりに「いそがしい」毎日を送っています。

でも、まだまだ時間を上手に使えず、「やりたいこと」が優先され、「やるべきこと」が後回しになったり、時間をムダに過ごしてしまったりしがちです。

時間の使い方を本人まかせにせず、子どもと一緒に家での約束事をつくった上で、ある程度までは親が管理してあげることも必要かもしれません。

あるある②

「テストの結果を見せようとしない」

理解ポイント

2

子どもは、ほめられたい



子どもの学習や活動に対する意欲は、「できた！」という達成感と、「よくできたね」というほめ言葉によって高まります。

子どもの気持ちに寄り添って、「ほめて・励まして」あげることがやる気を育てることにつながります。

点数が低くてガッカリしているようなら、できたところをほめることからはじめましょう。「ほめ上手はしつけ上手」、まちがいも、ほめながら直すのが最善の手立てです。

あるある③

「ただ部屋でダラダラと過ごしている」

理解ポイント

3

子どもは、認められたい



お手伝いをさせたり役割を決めるなどして、子どもが活躍する場面をつくってみましょう。「上手だね」「助かるよ」など、子どもの頑張りを認める声かけがあると、億劫な様子があっても、嬉しくて前向きな気持ちになるものです。

また、図書館などに一緒に出かけたり、近所を散歩したり、スーパーなどで一緒に買い物をしたりするのもいいでしょう。親子のコミュニケーションがヤル気を引き出すポイントです。